

防犯上の安全・安心が地域の価値にもたらす影響の定量的把握

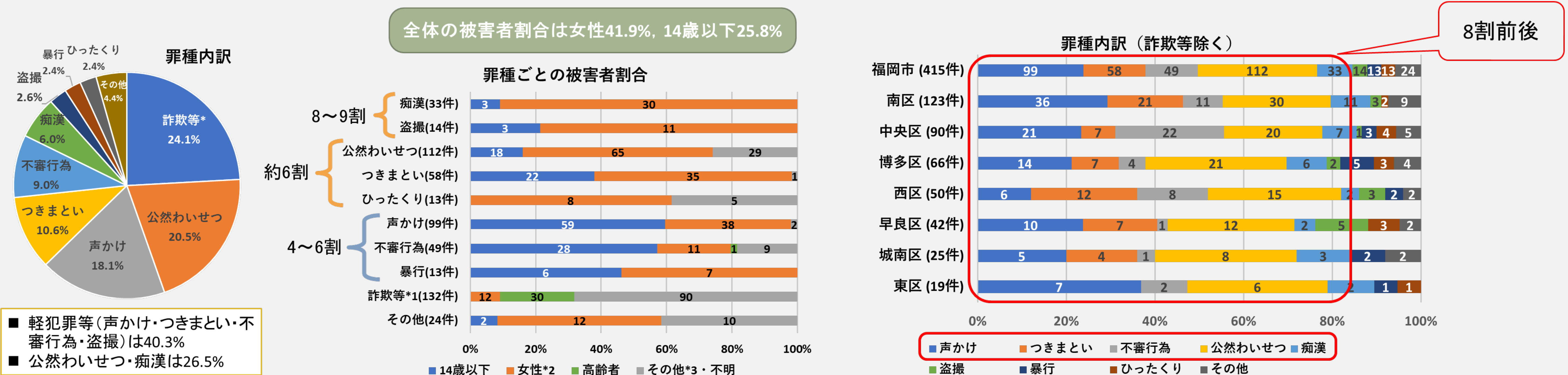
環境科学科 松永 千晶

研究の目的

成熟期を迎えた我が国のまちづくりは、いかに地域を持続可能で魅力・価値のあるものにするかが課題であり、特に住宅地域においては、日常生活における安全安心が重要な要因であると言える。これに対し**住宅地型エリアマネジメント**が成熟社会の地域の安全安心まちづくりの方策として期待されているが、従来の地域活動も含め、これらの地域の安全安心への効果はあまり明らかになっていない。本研究は、**安全安心まちづくりにおいて考慮すべき地域特性を明らかにすること**を目的とし、基礎的段階として福岡市を対象に、日常生活の安全・安心に直結すると考えられる防犯、特に軽犯罪に関するものに着目し、社会・経済的要因や交通量や物理的環境要因などで定義される**地域特性**と、**地域における犯罪や不審行為・軽犯罪との関係を定量的に把握**することを試みたものである。

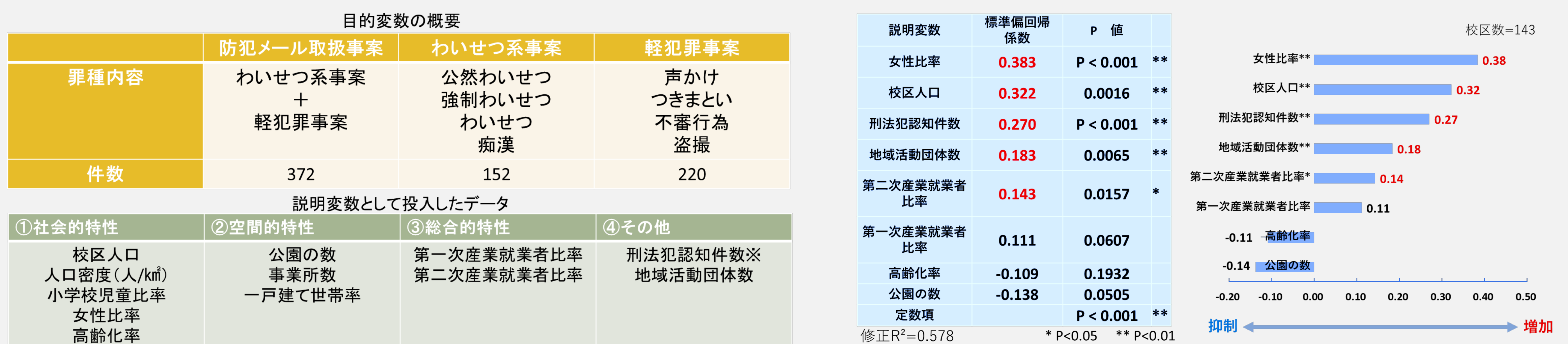
福岡市の犯罪・不審行為の傾向

- 公式統計の対象外である軽犯罪を含んだ傾向を把握するため福岡県警が配信する防犯メールデータを対象に分析（2020年1月～12月，547件）
- 行政区単位では大きな違いはなく、地域特性との関係を見るにはより詳細な単位での分析が必要



地域特性と犯罪発生との関係の分析

- 福岡市内143校区を対象に、重回帰分析により地域特性と犯罪発生との関係を定量化



分析結果の例（わいせつ系+軽犯罪）

	結果	結論・考察
防犯メール取扱事案	増加 女性比率・校区人口・刑法犯認知件数・地域活動団体数・第二次産業就業者比率	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットが多数存在 女性が狙われやすい 治安が良くない地域では日常的に犯罪発生、住民の不安感増幅へ
わいせつ系事案	増加 女性比率・第二次産業就業者比率 抑制 高齢化率・小学校児童比率	<ul style="list-style-type: none"> 性的犯罪(女性が狙われやすい) 人目につきにくいところ
軽犯罪事案	増加 校区人口・事業所数・女性比率・地域活動団体数 抑制 公園の数	<ul style="list-style-type: none"> ×小学校児童比率 →コロナ禍の休校措置等により、小学生の外出機会減少 ターゲットが多数存在・監視性の低さ →好条件な環境下≒犯罪機会があれば犯行に及びやすい

今後の展望と課題

- 時系列や季節・時間帯，昼夜率等を考慮したより詳細な分析
- 災害，COVID-19等，地域の安全安心にかかる他の要因と地域特性との関係や，地域の安全安心と地域の価値（地価やQOL等）との関係の分析
- 地域特性を調整しうるエリアマネジメント・地域活動策の検討